



第9図

るに従って同じ R では Z の値が小さくなることを示している。これはいわば粒子の落下速度を考えると当然の結果のように思えるが、一方粒度分布や降水強度の類似性や連続性の仮定がなり立つという事実を暗示しているとも言える。この傾向は密度の代りに温度の差によって示されている昼間から夜間への B の変化によってもうかがえる。

以上の結果を $\log B - \beta$ の座標にプロットしてみると第9図のようになる。 B の絶対値をとると霰の B の値は雲粒付よりも必ずしも小さいとは云えないが、一般の

傾向から言うと β の値に依存しており、これら3種の降水粒子の間に系統的な相異がみとめられる。

文献

- ① Best, A.C., 1950: The size distribution of raindrops. Q.J. Roy. Meteor. Soc. **76**, p. 16.
- ② 小平信彦, 1967: 気象レーダの基礎, 気象研究ノート86号 pp. 91-152.
- ③ Fujiwara, M. 1965: Raindrop-size distribution from individual storms Jour. atmos. Sci. **22**, p. 585.
- ④ Gunn, K.L.S and J.S. Marshall, 1958: The distribution with size of aggregate snowflakes. J. Meteor. **15**, p. 452.
- ⑤ Imai, I., 1960: Raindrop size distributions and Z-R relationships. Proc. 8th Weath. Radar Conf. Amer Met. Soc., p. 211.
- ⑥ Imai, I., Fujiwara, M., Ichimura, I., and Toyama, Y., 1955: Radar reflectivity of falling snow. Papers. Meteor. Geophys. **6**, p. 130.
- ⑦ Langlelben, M.P. 1954: The terminal velocity of snowflakes. Quart. J. R. Met. Soc. **80**, p. 174.
- ⑧ Magono, C. 1951: On the fall velocity of snowflakes J. Meteor. **8** p. 199.
- ⑨ Marshall, J.S. and Palmer, W. Mck. 1948: The distribution of raindrops with size. J. Meteor. **5**, p. 165.
- ⑩ Stout, E.G. and E.A. Mueller, 1968: Survey of relationships between rainfall rate and radar reflectivity in the measurement of precipitation. J. Appl. Meteor. **7**, p. 465.

気象学外国文献集刊行委員会からのお知らせ

1. 論文の著者との連絡の都合上、発行順が必ずしも一貫しない場合がありますが、文献集の番号は一貫させる方針です。即ち、既刊の3冊、General Circulation Part 1. 2; Tropical Cyclone は順に No. 1, 2, 3 としましたが、今回は Synoptic Meteorology and Weather Forecasting Part 2 で、これは No. 5 とします。そして、次々回に同 Part 1 を刊行し、No. 4 とします。御諒承下さい。
2. 現在、購読者は約400名で、まだ残部があります。購読御希望の方は、学会事務局まで御申込み下さい。但し、全巻購読者に限りません。定価は1冊1,000円です。
3. 購読者で、配布済の本の代金を未払いの方は、至急学会事務局宛御送付下さい。独立採算制で、かなり苦しいやりくりをしている現状です。